

長期活動方針書

2007.04.14  
岡山県オリエンテーリング協会  
理事長 佐藤旭一

本方針書は、05年1月に中期活動計画書としてまとめたものをベースにそのごの取り組み実態およびJOA動向を踏まえ基本骨子は踏襲しながら実情に合わせ主として到達目標年度を見直し、長期方針書として再計画したものである。

1. 基本的取り組み方

- (1). 総合型スポーツの指向による底辺の拡大と普及への再取り組み  
レクリエーション的スポーツに位置づけての参加機会の提供と定着  
競技スポーツとしての取り組み
- (2). 優先順位をつけて協会全体、クラブ単位、ディレクタ集団単位による息の長い取り組み

2. 長期活動骨子

項目	位置づけ	ねらい、内容	担当 (主導)	07年度		08年度		09年度	10年度	11年度	12年度～
				前期	後期	前期	後期				
<b>&lt;普及活動&gt;</b>											
1. パーマネントコースの再整備	レクスポーツ	参加機会の提供と市町村とのつながり構築	協会 (濱上)	青少年野外活動施設がある場所から優先整備							
2. 青少年施設等のOMAP作成整備	レクスポーツ	参加機会提供と普及への広報、施設との関係構築	協会 (佐藤)	JOAと連携							
3. 各種初心者教室の開催	レクスポーツ	参加機会の提供と定着への動機付け	協会 (佐藤)								
4. インストラクタ養成講習会の開催	レクスポーツ	定着への動機付けと次代リーダーの育成	協会 (佐藤)								
5. トレイルの指導者養成講習会開催	レクスポーツ	定着への動機付けと次代リーダーの育成	協会 (伊東)								
<b>&lt;競技活動&gt;</b>											
6. 一般大会の開催	競技/レク	参加機会の提供と競技技術、運営技術の向上	協会 /クラブ	1回	2回	2回	2回	4回	5回	5回	5回
7. パーク0の開催(ツアー化の志向)	競技スポーツ	参加機会の提供と競技技術、運営技術の向上	協会 /クラブ		1回	1回	2回	3回	3回	4回	4回
8. トレイル0の開催	競技/レク	参加機会の提供と競技技術、運営技術の向上	協会 /クラブ	1回	2回	2回	2回	4回	5回	5回	5回
(基本的に一般大会、パーク0と併設する)											
9. 公認大会の開催	競技スポーツ	参加機会の提供と競技技術、運営技術の向上	協会								
10. 全日本リレー大会への選手派遣	競技スポーツ	技術、層の向上	協会 (佐藤)								
11. コントローラ養成講習会への派遣	競技スポーツ	技術、層の向上	協会 (佐藤)								
12. 公認大会開催のためのOMAP作成	競技スポーツ	技術、層の向上と参加機会の提供	協会								
<b>&lt;全般運営&gt;</b>											
13. ホームページとMLの運用	競技/レク	大会と普及への広報および初心者へのケア	協会 (佐藤)								
14. 各種大会参加とクラブ員獲得	競技/レク	技術向上と層の拡大	クラブ								
15. 理事会の活性化	-	定期協議により円滑かつ活発な活動につなぐ	協会 (佐藤)								

### 3. 組織、運営面での取り組み

#### (1).組織体制

常に現状実態に即した体制の整備見直しと充実により活動の活性化につなぐ。

#### (2).各種団体組織の認知

行事の都度名義後援を得る等により行政、各種団体の認知を得て助成事業を含めた種々行事への参加機会拡大。

#### (3).活動計画の具現化

基本的には、主担当(主導者)もしくはその委託を受けたものが、関係部門と連携を図りながら具体化し実行する。必要に応じ担当組織横断的なプロジェクトを編成し実行にあたるか、協会組織を挙げて対応する。具体化に際しては、随時ミーリングリストを活用し情報伝達するとともに必要に応じ審議に供する。状況を見ながら将来的には理事の担当制を敷くか専門部体制での推進を指向する。

#### (4).活動資金の確保

毎年項目を定めて各種団体への助成申請を行い、不足費用を充当する。  
インストラクタ、ディレクタの増員を図るとともに、競技者登録者を多く募りJOAからの還元増を図る。  
主催、後援で支援してくれる行政、新聞社、放送局、および協賛してくれるスポンサーを積極的に探す。

#### (5).情報の発信

ミーリングリストを活用しJOA情報、大会情報等の提供を行う。(会員向け主体)  
ホームページを活用し広く情報公開する。(一般向け主体)  
普及行事の広報を積極的に行うとともに、事後のケアに十分配慮する。

#### (6).計画の見直し

本計画は長期的視点に立って立案しているが、毎年実態を分析し見直すものとする。  
さらに、年度ごとにブレイクダウンした単年度計画を策定する。

### 4. ありたい姿

#### (1).3年後(2010年)

県内各地で年間5回以上の大会が開催されており、回を重ねるごとに新たな参加者が増えてきている。  
パーマネントコースも優先度の高いものは整備され、青少年施設用を含めOMAPも順次投入されつつある。  
インストラクタが5名程度登録され、大会参加、大会開催の新しい若返りの力として期待できる。  
インカレで活躍していた学生の就職もあり、全日本リレー選手権MEクラスに常時出場が可能になってきた。  
組織としての円滑な運営もほぼ軌道に乗り、専門部体制を敷いてさらに活動を充実させるタイミングが見えてきた。

#### (2).6年後(2013年)

クラシカル、パーク、トレイルを含め年間10回程度の大会が開催され、参加者は延べ1,000名に近い。  
なお、各クラブ、ディレクタ、インストラクタがうまく連携し合理的に運営しているので負荷はそれほどではない。  
パーマネントコースの整備、廃止、新設が一段落し、青少年施設を含め常設コースの活用が増えつつある。  
組織運営も専門部体制による分担主導體制になっており、役員世代交代も完了した。  
公認大会の準備を進めている。

#### (3).10年後(2017年)

クラシカル、パーク、トレイルを含め年間10回以上の大会が開催され、参加者は延べ1,000名を優に越え、  
県内での社会的認知も得られ、普及イベントへの参加者は継続して多くある。  
クラブ員数も上昇に転じ練習会等活発に行われ、全日本リレー選手権への派遣は、一部クラスで選考会を開き決定するようになっており常時5クラス以上にエントリーしている。

以上



